

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コスモス地域福祉活動センターえと(放デイ)		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 1日		2024年 9月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2024年 9月 1日		2024年 9月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 10月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5・7 子どもたちの特性等に応じた支援や、専門性、特性の理解	強度行動障害や自閉症スペクトラムなど様々な障害の理解や特性への配慮点、支援の中身の共有を法人を通して行う機会があり、職員が参加し学んだことを実践にも繋げている。	積極的な研修への参加や、事業所内での支援についてを振り返る機会の設定
2	20 保護者や子どもたちとの意思の疎通や情報伝達の為の配慮について	面談の機会等ではない、日常の送迎時のやり取りや電話連絡、連絡帳などで保護者からの思いや困りごとを聞き取りながら、必要に応じて面談や関係機関へと繋ぐことも行っていく。送迎時保護者の方の体調や表情など気になることがあればどのような支援や助言をしていけるか、なども職員間で共有している。	関係機関とのやり取りをより密にしていく。相談支援への共有など家族へも確認をとりながら、スムーズに行っているように。
3	8 支援計画について。子どもたち・家族へ必要な支援の内容が「本人支援」「移行支援」「家族支援」へ明確に示されているか。	保護者への聞き取り後、目標の設定や見直しを行う際に現場職員間でも必ず論議(事業所内ケース会議)を行い、より実践の中で具体的に支援をおこなっていきけるような目標の設定を考えている。	設定した目標について、しっかりと実施していけるように、支援目標を職員が日々意識できる工夫を考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	11 地域との交流、地域の子どもと活動する機会について。活動の中身を家族へしっかりと伝えられていない現状が見えた。また、実際に活動が行えていない現状も見えた。	伝え方により工夫が必要であると考え。また、地域や地域の子どもたちと一緒に活動する機会についても設定が必要である。	事業所や法人が行っている、地域にも開かれたまつりへの参加をより積極的に行ったり、誘いかけを行い活動の報告についてもニュースなどで発信をしていく。また、地域で行っている防災訓練など、地域が主催している取り組みについても情報を集めながら参加していけるようにする。
2	24・25 事業所で取り組んでいる災害時訓練や子どもたちの安全を守るための計画について。	訓練などの取り組みを行っているが、伝えきれていないことがアンケートから読み取れた。また、安全計画を策定しているが中身について伝えきれていないことが分かった。	年間での予定の組み立て。また活動報告については家族へ伝わりやすい方法手段を工夫して行っていく必要がある。
3	18 保護者会などの保護者同士の交流の機会の設定について。またきょうだい同士の交流の機会、きょうだいへの支援について。	開催数が少なく、また、就労をしている家族も多い中で日程の調整工夫を事業所ができていない現状が見えた。	定期的な開催の設定が必要。また開催するにあたって、保護者会の中身についてもテーマを絞るなどの工夫をし、より参加しやすく、情報の共有の場となれるような工夫が必要。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	コスモス地域福祉活動センターえと(放デイ)
------	-----------------------

公表日 2024年10月25日

利用児童数 19名

回収数 14

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	1	0	1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11	2	0	1		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	0	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	11	1	0	2		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	1	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	1	0	1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	1	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	0	0	2		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	2	0	1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	1	0	1		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	7	1	0	5	コロナ禍で地域の祭りもなくなってしまったこともありますよね。	地域での催し物など情報を集めながら、参加していけるものに関しては少しずつ再開していけるように、取り組んでいきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	1	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	2	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1	0	2		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	13	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	2	0	4		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12	0	0	2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	0	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	0	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	1	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		コスモス地域福祉活動センターえと 放デイ			公表日		2024 年 10 月 25 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	人数や体制を見ながら、活動を分け、室内環境の工夫を行っている。	活動の中身によってはスペース確保が必要と感じる場合もある。事前の活動計画の調整も必要。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	体制分けを行い、職員数に応じた活動への変更や工夫を行っている場合もある。	一対一での支援や見守りが必要な子どもたちが多数在籍している中で、より安全に、そして活動や支援を丁寧に行っていくように職員数の確保に努めている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	予定カードや必要に応じて絵カード、写真を使用している。	複数の物の整理や配置の工夫が必要。改善していく。 トイレへの導線の確保ややり取りの工夫が必要。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	掃除は毎日行い、清潔に保てるように努めている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	活動の中身や子どもたちの気持ちの切り替えへの支援で個室や場所の移動をできるようにしている。	個室の環境設定が必要。子どもたちが安全に過ごせるような部屋になるように。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	職員間で意見を出し合いながら進めている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	アンケート結果の共有を行っている。また改善していくように話しあっている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎月2回程度現場職員での会議を設け、業務改善や実践について話しをするようにしている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6	今年度は行っていない。	行える機会を作り、評価してもらう。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	代表で参加した職員が、他の職員へ報告・共有するようにしている。 全員参加： 人権研修/マナー研修/虐待防止研修			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	現在作成中。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	モニタリング時だけでなく、日々のやりとりの中での聞き取りなども大切にしている。 子どもたちからの意見や思いの聞き取りも日常の中で聞きとりながら反映させている。	サイクルを守りながらしっかりとニーズを計画に反映していけるように今後も継続していく。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	現場会議内でケース検討を行い、目標や計画の中身について職員間で論議するようにしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	ケース検討時に職員間で共有を行っているが、より意識をしていくような工夫が必要。	常に職員が意識していけるように、計画の「見える化」が必要。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0		より具体的にやっていくように工夫していく。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域連携・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	ライフステージの変化(移行支援)への対応は相談支援や移行先(就学先・進路先)とも連携していくことを明記しながら進めている。他の項目についてもより具体的に明記するように意識している。	より具体的な内容にしていき、分かりやすくできるようにする。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	現場会議内で意見を出し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	予定プログラムと、その都度子どもたちの意見を聞きながらのプログラム設定を、臨機応変に行うようにしている。	プログラム内でも子どもたちの姿によって活動を分けるなどの工夫が必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	個別・集団の視点を持って計画を立てている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	その日の予定、送迎、体制、留意事項を出勤時に確認している。また時差出勤職員へはその都度伝えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	送迎や時差退勤により、全体でその日の振り返りが難しい場合も多いが、気になる点や気付きなどの共有は必ず翌日以降行うようにしている。また文章で残して共有している。	職員全員が共有できるような方法手段を工夫していく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	その日のうちに記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	6か月を目安にしながら、必要があればその期間内でも見直しを行っている。モニタリング時だけでなく、家族からの発信や職員間で気づくことはその都度情報の共有を行い、必要に応じて計画の見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	行っている。個々のケースに合わせて内容にしながら、同じ活動でも取り組み方を変えるなどしている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	日々の活動の中で選択できる瞬間や、自分を認めてもらえる瞬間、やりたい活動へ積極的に参加できる瞬間ややり取りの工夫を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児発管ないし、児童指導員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	相談支援に主として入ってもらいながらの連携を行っている。	より情報の共有を行っていけるよう関係作りも必要。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	放課後連絡会を通しての学校との情報共有、地域校とは直接、ないしは家族を通じてのやりとりを行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	就学するにあたり、利用していた施設と支援についての共有を行っている。	やりとりが難しい場合もあり、関係づくりが必要。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	相談支援を主とし、担当者会議の場に参加し情報の提供や支援についての共有、引継ぎを行うようにしている。	相談支援がない場合には、直接やり取りをする必要があるため、家族への了承を得ながら、必要に応じて臨機応変に行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	0		まだ行っていないが、研修会や交流会への参加や、必要に応じて支援の中身や環境設定などについても助言を求めることができる機会を設定していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	0	地域のまつりや地域主催の防災訓練への参加を行っている。また学校長期休暇期間を利用し、様々な地域の活動へ参加している。	参加している中身について、より地域と関わっているという事を家族へ伝えきれていない現状があるので、そこへの工夫と手立てが必要。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	放課後連絡会を通して、自立支援協議会とのやりとりをできる場への参加をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	連絡帳や送迎時のやりとり、気になることがあれば電話連絡をするなどし、行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	家族懇談会の設定を行っている。	就労している家族も多い中で、日程や開催頻度の工夫改善が必要。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に行う。また重要事項変更の際には必ず説明の書面も確認して頂いている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	モニタリングや日々の子どもたちとのやり取り、姿、家族からの聞き取りから、反映させ作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	変更点や留意事項なども伝えるようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	その都度家族からの発信の元、必要な情報の提供を行っている。	必要に応じて面談の機会の設定も行っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	就学前小学校低学年・中高生の家族に分け、より具体的な交流や情報交換ができる懇談会の設定を行っている。 中高生家族へ「エリア交流会」として、作業所家族や職員と交流できる場を設定している。	家族懇談会の設定はあるが、きょうだいで交流の機会の設定がほぼないのが現状。秋ごろに家族と遠足企画を行っている。そこで交流する機会に繋がるよう工夫が必要。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	行っている。報告をあげることに了承を得て、事業所や施設で解決していくことに努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0	HP、事業所内のニュース(書面)、法人内機関紙(コスモスレポート)内で活動の様子等発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	日々の連絡帳などでやりとりを行ったり、電話連絡の方がよいと判断した場合は電話を欠けさせてもらうなどの対応をしている。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	0	施設で行うまつりなどへの参加を拡げている。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	訓練については行っている。	実施した訓練の報告についてより詳細に伝えていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	訓練については行っている。	実施した訓練の報告についてより詳細に伝えていく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	0	医療シートで年度初めに家族に確認を取っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	医療シートで年度初めに家族に確認を取っている。指示書については、必要に応じて頂いている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	作成している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		周知が不十分な部分も見られるので、改善していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	現場会議内で職員間で出し合い、共有、再発防止についても話し合っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	行っている。施設内での虐待防止研修の参加と、事業所内で虐待防止委員会の実施を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	行っている。家族からの同意、職員間での共有と検討・見直しを定期的に行っている。また実施した際には報告と記録を残している。		